子どもと言葉遣い～言葉は人格であり、生き方の姿勢～

中原　裕美子

言葉・・思考や創造の源

　この地球上では数多くの動物が、それぞれのやり方で、子どもの命を大切に守り育てています。生命の営みで、人類がほかの生命体にない究極なものをあげるとしたら、それは**質、量ともに「言葉」**です。言葉こそが、人間が豊かな思考や創造をする力の源となっています。

私たちが何かを考えるとしたら、それは言葉という手段を得て、初めて可能になるというのです。ですから**思考力が豊か**だというのは、その人が駆使できる言葉が豊富にあることにほかならない、というわけです。

言葉のやりとりが子どもの人格を作る

　言葉遣いが、その人の人格をあらわすということは、私たちが対人関係を築いていく中で実感することです。
優しく丁寧に、また素っ気なかったり、乱暴であったり…。話し方には、その人の人柄や人格があらわれるのはもちろんのこと、そのときどきの喜怒哀楽などの感情や場の雰囲気によって、さまざまに変化して表現されます。楽しいときや嬉しいときには、誰もが多弁になります。

　子どもは、幼いときほど、自分が覚えてきた言葉を使ってあれこれ多様に、希望に満ちた表情で、感情こめて、親や家族に話したがります。そして自分の話に対して、親がどのように受けとり、受けいれるかを、敏感に感じとりながら、子どもは自分の言葉遣いや人格を作りあげて成長していくのです。

　家庭でこのような言葉のやりとりを繰りかえすことで、子どもは「言葉を使って自分の考えや感じたことを相手に伝える」というもっとも人間的な要素を発達、成熟していきます。

引用「はじまりは愛着から」　佐々木正美